

授業アンケートから



学生の選んだ

Tokai Univ. Teaching Award Prize Winners List 2013

『いい授業』



教育支援センターのホームページ
<http://www.esc.u-tokai.ac.jp/>



東海大学教育支援センター



東海大学教育支援センター

発行●東海大学教育支援センター 編集●教育支援センター教育支援課 発行日●2013年5月31日
TEL●0463-58-1211(内線2087) E-mail: shien@tsc.u-tokai.ac.jp



TOKAI UNIVERSITY
EDUCATIONAL SUPPORT CENTER

優れたカリキュラムと『いい授業』を学生に!



東海大学学長 高野 二郎

価値観の多様化と複雑な課題が山積する現代社会において、東海大学は、その未来を担い社会に貢献する人材を育成するための新しい教育を展開しています。

そうした教育をいっそう充実させていくためには、教員側からは、学生の現状をより深く理解するとともに、授業アンケート等を通じて、わかりやすい授業を提供し、学ぶ心に火をつけるような工夫をしていくことが大切です。同時に、学生の皆さんも社会の期待に応えるよう成長していくために、先生とよりよい授業の実現に向けて協力していただきたいと思えます。

今回、学生の皆さんによる授業アンケート結果に基づき、5人の先生方が「Teaching Award」を受賞されました。東海大学にとって財産ともいえる先生方です。またこの制度は、現状の教育プログラム改善のためのひとつのエンジンにもなっていくと考えています。

東海大学は、こうした制度の活用を含め、明日の輝かしい大学づくりを目指していきます。学生と教職員とが一緒になって、よりよい東海大学を築いていこうではありませんか。

●東海大学が育成する力

—自ら考え、集い、挑み、成し遂げる力—



- **自ら考える力**…常に未来を見据え自らが取り組むべき課題を探求する力
- **集い力**…多様な人々の力を結集する力
- **挑み力**…困難かつ大きな課題に勇気を持って挑戦する力
- **成し遂げ力**…失敗や挫折を乗り越えて目標を実現していく力

授業アンケートから

学生の選んだ『いい授業』

Teaching Award 2013 優秀賞受賞者 (2012年度選出)

文学部アジア文明学科 ■ 葉 千栄 先生

体育学部武道学科 ■ 天野 聡 先生

総合教育センター ■ 吉田 厚子 先生

外国語教育センター第一類(高輪教養教育センター) ■ ヴィーンストラ
ロバートジェイソン 先生

課程資格教育センター博物館学研究室 ■ 篠原 聡 先生

あなたの**授業アンケート**が**いい授業**を作る!

●東海大学Teaching Awardの選考方法

東海大学では「授業力向上」のために、1993年度から学生による授業アンケートを行っています。『いい授業』を行っている先生方を表彰する制度『東海大学Teaching Award』は、1年間に開講された全ての授業を対象に、「授業を通じて達成できたこと」や「総合評価」を集計し、学部等各組織ごとに集計点の高い計22名の受賞候補者を選出、さらに候補者の集計結果を標準化して2012年度は5名の先生を優秀賞受賞者として学長室を中心としたTeaching Award選考会で決定しました。あなたの『授業についてのアンケート』が、学生が満足する『いい授業』を作っているのです。

●記載内容の注意とお願い!

- ① 授業科目名は2013年度春学期・秋学期に開講される「主な3科目」です。
- ② 授業内容はキャンパスライフエンジンから「シラバス検索」で確認できます。
- ③ 教職員が授業を見学する場合は「授業時間割表」で教室を確認し、授業開始前に担当教員に申し出て見学してください。
- ④ 所属は2013年4月現在です。



文学部アジア文明学科
葉 千栄先生
Yho, Senei

bqw00273@nifty.com

最大の武器は言葉



古代ギリシャから今日まで、数千年を経て行われている「授業」という形態。紙からインターネット、タブレットPCへとメディアが進化しても、基本はface to face。

教える人が学ぶ人を引き付け、知的好奇心をかきたてて学問の世界へ案内する力が不可欠です。

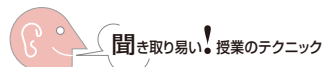
従って教える側の最大の武器はやはり言葉だと思います。自分が心から大切だと思うものを「第一人称で」「迷わず」「淀みなく」聞き手の心へ届くように「力強く」話すこと。これに尽きるのではないのでしょうか。



●主語+述語のシンプルなセンテンスを用い、話をだらだら続けません。資料を見ながら話すのではなく、具体的な事例や統計を、教員自身が頭の中に入れた上で展開に合わせて引き出していきます。



●プリントやスクリーンを多用せず、教員の顔、言葉へ集中させます。事実や事例を伝えた上で、その中に潜む疑問や可能性などを提起し、結論先行ではなく、学生が事実から結論を導けるようナビゲートします。



●簡潔なセンテンスで力強く伝えます。
●歯切れよく、明瞭な声で話します。
●重要な言葉のみ、その場で、大きく板書します。

授業を良くするために活用していることは?

インターネット

今回のテーマに合わせた検索キーワードをあらかじめ伝え、自身で予習をした上で授業に臨むよう指導します。

Student Voice

文学部歴史学科考古学専攻4年 小沼 桜子さん

●世界で起きた最新の事例や、先生が実際現地に赴き、目で見て感じたことを話して下さるので、毎回楽しいです。また、マナーが保たれた教室にはほどよい緊張感があり、集中できます。ニュースや新聞に目を通したり、授業で取り上げた事例についてインターネットで検索する機会が増え、知識や視野を広げることができました。



2013年度春	科目名	必選	単位	開講校舎
	近現代東アジア論	×	4	湘南
	構造と変化	×	2	湘南
	アイデンティティと共生	×	2	湘南

2013年度秋	科目名	必選	単位	開講校舎
	近現代東アジア論	×	4	湘南
	構造と変化	×	2	湘南
	アイデンティティと共生	×	2	湘南

受講しやすい環境づくりが大切

特別な工夫はありませんが、次のことを心がけて授業を行っています。



①学生が授業を受講しやすい環境を作ってあげることが大切だと思います。私の授業では規律を守る(時間厳守、携帯、私語等)ことにも気を配ります。そうすることで、学生が緊張感を持って授業に臨むことができ、集中して授業を受講することができると思っています。授業態度や授業マナーといった社会的態度を身に付けることにもつながります。



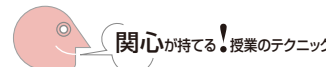
②実習・実技科目が多いため、できるだけ学生とコミュニケーションをとりながら、楽しく明るく授業ができるようにしています。



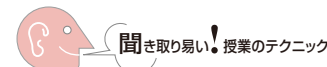
体育学部武道学科
天野 聡先生
Amano, Satoshi



●毎回授業の冒頭に、前回までの確認と今日行う講義の概要を説明し、大事なポイントを明確にして授業を開始するように心がけています。



●他の競技種目との共通点や相違点を取り入れながら、様々な競技と関連させることで、より興味を持てるようにしています。私が模範を示したり、視聴覚教材や資料で具体的なイメージがわかるようにしています。



●大事な内容は何度も繰り返し説明するようにしています。また、実技科目ではマイクを使用しないため、できるだけこちらに集中させてから、大きな声で早口にならないように話すことを心がけています。



Student Voice

体育学部武道学科3年 山口 瑞生さん

●天野先生は、学生一人ひとりに気を配り話しかけて下さるので、大変親しみやすいです。また、先生の授業は、科学的分析やご自身の体験をふまえた、実戦に近い知識をたくさん得ることができます。考えたり、意見を表明したりする機会が多く、「自分で考え、行動する力」を身につけることができました。

授業を良くするために活用していることは?

講演会や研究会への参加

できるだけ多くのFDに関する講習会に参加して、いろいろな指導法を学び、自分の授業に活かすよう心がけています。

2013年度春	科目名	必選	単位	開講校舎
	剣道 理論及び実習	×	1	湘南
	生涯スポーツ理論実習	○	1	湘南
	日本剣道形1	×	1	湘南

2013年度秋	科目名	必選	単位	開講校舎
	剣道形指導法	×	1	湘南
	生涯スポーツ理論実習	○	1	湘南
	剣道特別実習2	×	1	湘南



総合教育センター
吉田 厚子先生
Yoshida, Atsuko

● 考えて書いて、実感し、心に残る授業



学生の多くは、学問をリアルに
知ることなく、知識を教養として
活用できていません。学びの動

機付けと自ら学ぶ楽しみを育むために、次の4点を心がけています。①教学姿勢の向上：授業は起立・挨拶からスタートし、遅刻・早退時の礼儀作法や私語に対するペナルティ等も最初に約束する。②学ぶ環境づくり：双方の自己紹介を行い、学生の氏名・出身地・チャームポイントを覚える。一定の距離を保ちつつ、学生が自由に思考し発言し易い雰囲気を作る。③ヘッド・ハンド・ハート(3H)で学ぶ：頭で分かろうとするだけでなく、手を使って授業の要点をまとめて、心から実感する。④できるだけ研究室に在室しフォローアップをはかる。



● 分かり易い！授業のテクニック

●重要なことは繰り返し強調し、きりのよいところでまとめます。3色のチョークを使い分けます。知識の蓄積だけでなく、教養として学んだ知識や方法を社会で活かせるよう、問題意識をもたせ実践させています。

● 関心を持てる！授業のテクニック

●歴史嫌いの、歴史離れの学生に対して、根気強く世界史観の転換を喚起し、歴史から学ぶ姿勢を確立させます。日本人としてのアイデンティティを江戸の社会文化に求め、日本の伝統文化を自覚できるようにします。

● 聞き取り易い！授業のテクニック

●ゆっくり、はっきりと話します。場合によっては、板書の時間と説明の時間とを分けます。質問・意見に関わる発言以外の私語は、すべて注意します。学生に対して指導する際にはポジティブ・ワードを用います。

授業を良くするために活用していることは

ミニレポート

毎時間ミニレポートを課すことで、学生の理解度や意識の在り方を把握し、次回の授業に役立てています。

Student Voice

海洋学部海洋文明学科2年 堀畑 幸里さん

●毎回与えられるテーマをグループ内で考察し、最後にまとめて発表する参加型の授業です。授業で様々な意見を聞いたり、考察する時間が与えられることによって、「考える力」が身につきました。また、発表に対し研究者としての考えを述べてくださるので、違う視点での意見にも触れることができ、自分の視野を広げることができました。



2013年度春	科目名	必選	単位	開講校舎
	構造と変化	×	2	湘南
	テクノロジーと社会	×	2	湘南
	修了演習	×	2	湘南

2013年度秋	科目名	必選	単位	開講校舎
	構造と変化	×	2	湘南
	テクノロジーと社会	×	2	湘南
	多文化世界論	×	2	湘南

● Passion!

授業のモットーの一つは「情熱」です。この「情熱」とは、多くのエネルギーや努力、誇りをもって、物事に取り組むということです。この言葉を毎回板書し、



授業の開始時と終了時に繰り返し唱和します。私は、授業のはじめに学生に対して、「遅刻をしない」「提出された宿題は翌週に返却する」「面白くて楽しい授業にするにするために情熱を持って講義する」と約束します。同時に、学生たちにも、「正当な理由なしに遅刻や欠席をしない」「宿題を提出する」「グループワークは熱意を持って笑顔で行う」と約束してもらいます。私は「情熱」は学生に伝わると強く信じています。「情熱」を持って教えれば、きっと彼らにも伝わり、熱心に授業に取り組んでくれるようになると思います。



外国語教育センター第一類
(高輪教養教育センター)
ヴェーンストラ
ロバートジェイソン先生
Veenstra, Robert Jason

● 分かり易い！授業のテクニック

●学生が教科書の内容を理解しやすくなるように、オリジナルの補助教材を作成しています。例えば、主語を「Kai Suzuki is……」と日本人名に変更します。私はこれを全ての授業で行っています。

● 関心を持てる！授業のテクニック

●学生同士がワークをできるようにしています。授業時間の90分は、座り続けるには長く、むしろ動き回って他の学生と話すことで授業に活気を与え、より授業に関心を持たせることにつながると思います。

● 聞き取り易い！授業のテクニック

●私は幸い非常に声が大きいので、私の声が聞こえないことはないと思いますが、学生全員が私の話を聞くことができるように、教室を動き回りながら話すようにしています。



Student Voice

情報通信学部情報メディア学科2年 竹中 奨さん

●元気な先生の人柄もあって、楽しく明るくなれる授業です。宿題以外の課題に取り組んだり、質問をたくさんするなど積極的に授業に参加すると、「passion point」というポイントが付加されるので、授業に対するモチベーションが上がりまます。クラスメイトと英語でコミュニケーションをとることによって、自然と英語力が身につきました。

授業を良くするために活用していることは

授業参観

他の教員の授業を参観し、逆に他の教員に自分の授業を観てもらいます。高輪教養教育センターでは、授業参観が必須であり、私は多くの教員の授業から、様々なテクニックを学び、参考にしています。

2013年度春	科目名	必選	単位	開講校舎
	英語リスニング&スピーキング1	○	2	高輪
	英語コミュニケーション/リーディング	○	2	高輪
	英語会話入門	×	1	高輪

2013年度秋	科目名	必選	単位	開講校舎
	英語リーディング&ライティング1	○	2	高輪
	英語コミュニケーション/スピーキング	○	2	高輪
	英語会話入門	×	1	高輪



ss062876@tsc.u-tokai.ac.jp

●人の「想い」を大切にしたい



2012年度
博物館は多様な世界観がせめぎあうコミュニケーションの場でもあります。自分とは違った考えにも心を閉ざさず、「集い力」を通じて、多様なものの見方・考え方を身につけることが大切です。また、他者の意見や考えを尊重しつつ、自己と他者の違いがどこにあるのかを探究し、その違いを超えた地平に一つの真理を見出そうとする姿勢も重要です。「君の考えはそうだね。僕は君とは違うけど」で終わってはいけません。「挑み力」は、他者理解を通じて自分をより深く知ることにもつながっています。これから先、自分の思想や考えでは説明が難しい事実と直面した時、答えが分からないという状況から逃げ出さず、「曖昧さに耐える力」、「成し遂げ力」、「自ら考える力」を身につけ、問いつづけることが大切です。

課程資格教育センター
博物館学研究室

篠原 聡先生
Shinohara, Satoshi

● 分かり易い！ 授業のテクニック

● 成功例だけでなく、失敗例や自分の失敗談などもできるかぎり紹介し、失敗から学ぶことの大切さも伝えるよう心がけています。小さな怪我なら、学生にはとんとんしてほしいと思います。大きな怪我をしないように。

● 関心が持てる！ 授業のテクニック

● 博物館学に関する理論だけでなく、博物館の現場で今、まさに起こっている課題や、これから先の未来に起こりうる問題などを、具体的な事例に基づき、学生とともに考える姿勢を大切にしています。

● 聞き取り易い！ 授業のテクニック

● 学芸員の心得として、また真剣に受講している学生のために、特にマナーは重要視しています。自分が現在チャレンジしている仕事や経験談などを「生きた言葉」で伝えることも大切だと考えています。



授業を良くするために活用していることは？ 学生とのコミュニケーション

学生の考えや質問、理解度の確認のため、コミュニケーションペーパーを書いてもらい、コメントをつけて学生に戻しています。授業以外でも学生の考えを聞く機会を持ちたいと思っています。

Student Voice

文学部歴史学科西洋史専攻2年 中村 未来さん

● 授業には、博物館での実例や先生ご自身の体験談など現場の話がふんだんに盛り込まれているので、「自分が学芸員になったら」ということをイメージしやすいです。また、博物館へ行ってみるなど、積極性が身についたと思います。授業をただ聞くだけではなく、「自ら考えて、動く」という姿勢・習慣は、他の授業にも活かされています。

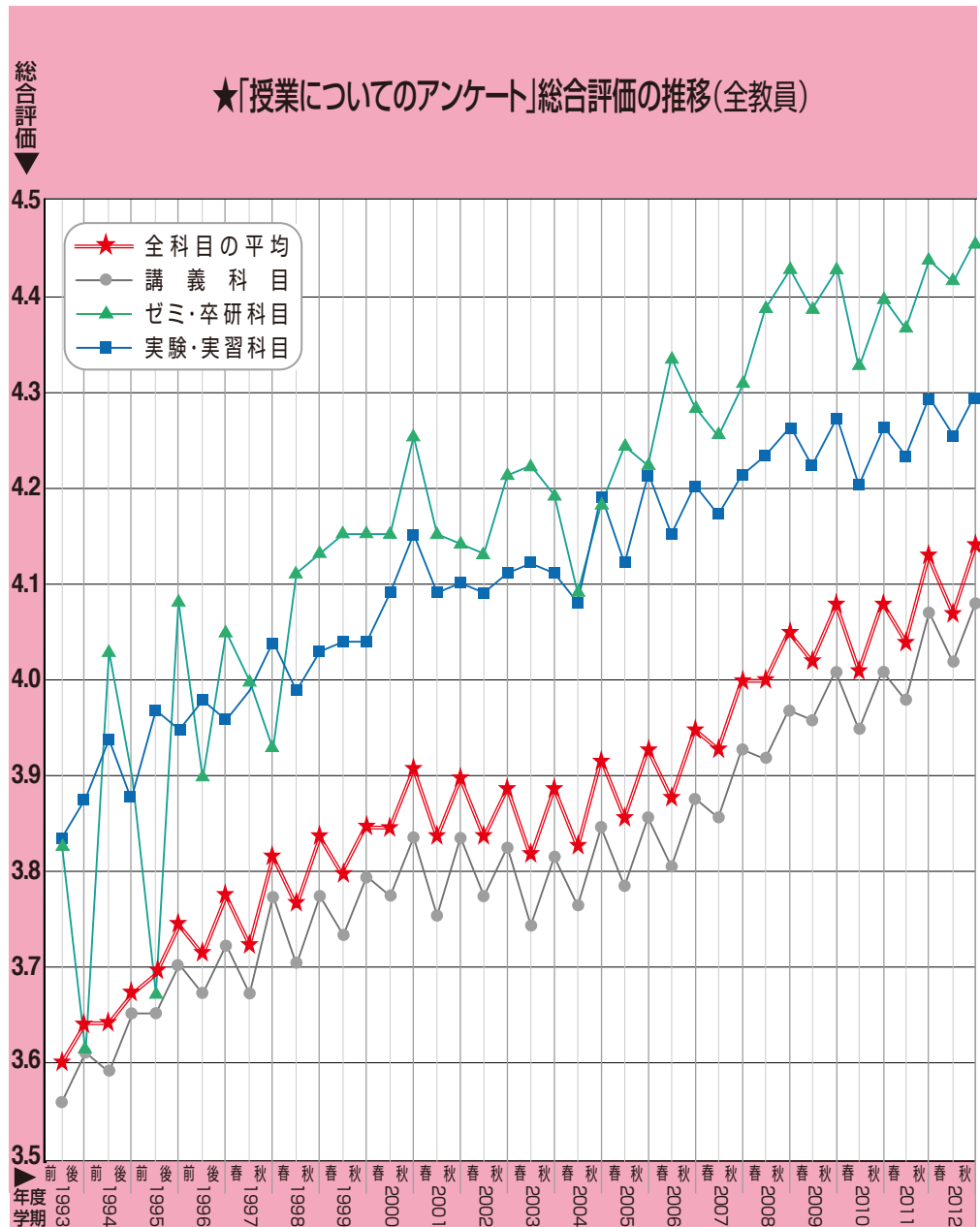


2013年度春	科目名	必選	単位	開講校舎
	博物館概論	※	2	湘南
	博物館情報経営論	※	2	湘南
	博物館実習1	※	2	湘南

2013年度秋	科目名	必選	単位	開講校舎
	博物館概論	※	2	湘南
	博物館展示論	※	2	湘南
	博物館実習1	※	1	湘南

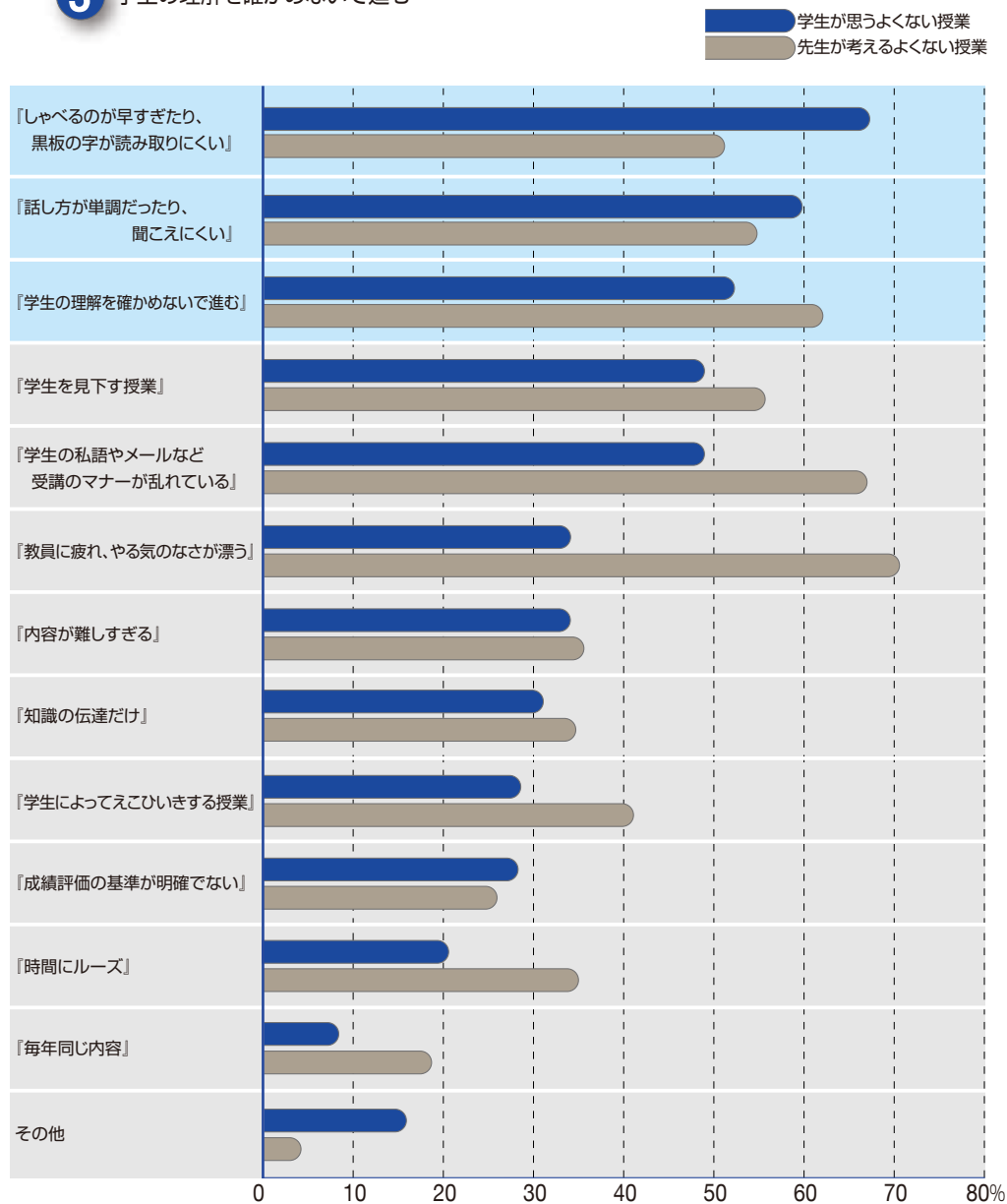
◎だんだん増える『いい授業』

「授業についてのアンケート」★総合評価 4.14 (5点満点中)
2012年度秋学期の平均



◎『よくない授業』ワースト3 ― 学生はこんな授業で困っています

- 1 しゃべるのが早すぎる・板書の字が読み取りにくい
- 2 話し方が単調・聞こえにくい
- 3 学生の理解を確かめないで進む



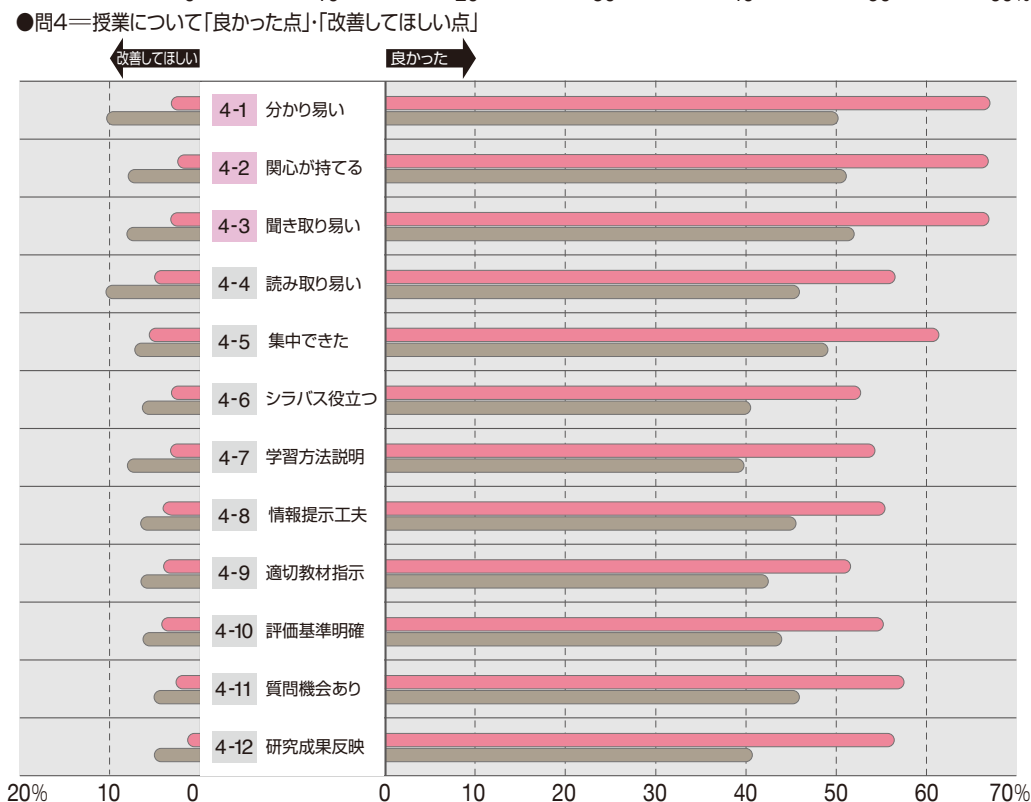
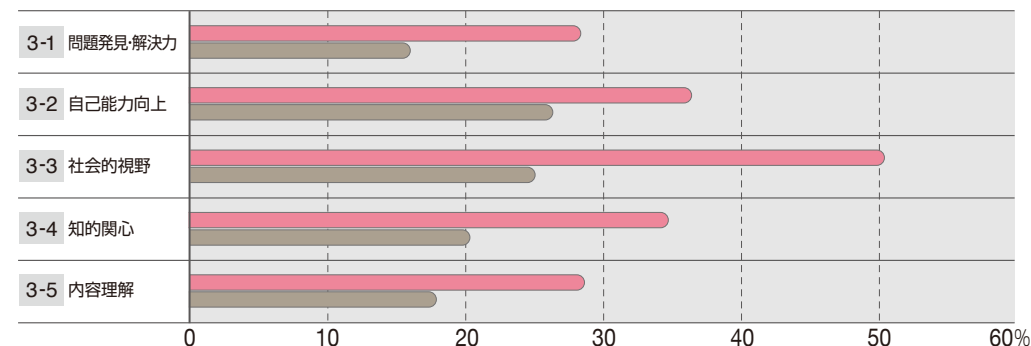
◎『いい授業』はここが違う

「わかる授業」の要素 ― 分かり易い! 関心が持てる! 聞き取り易い!

■Teaching Award受賞者と講義科目全体との比較(2012年度授業についてのアンケートより)

●問3―授業を通じて達成できたこと

●問4―授業について「良かった点」・「改善してほしい点」



授業アンケートから

学生の選んだ『いい授業』

Tokai Teaching Award 受賞者一覧(2002~2011年度)

*退職者、掲載辞退者を除いています。*2007年度以前は選考方法が異なり最優秀賞と優秀賞があります。



文学部アジア文学科	葉 千栄 先生	2002年度 2003年度 2007年最優秀賞
文学部日本文学科	中村 孝一 先生	2007年度 2007年
文学部文芸創作学科	堀 啓子 先生	2007年
文学部英語文化コミュニケーション学科	斎藤 早苗 先生	2003年度
文学部英語文化コミュニケーション学科	川崎 修一 先生	2003年度 2006年度
文学部心理社会学科	浅井 千秋 先生	2007年度
観光学部観光学科	菅井 克行 先生	2011年度
観光学部観光学科	立原 繁 先生	2010年度
政治経済学部経営学科	岩谷 昌樹 先生	2006年度 2009年度
経営学部経営学科	田中 靖久 先生	2009年度
法学部法律学科	田上 麻衣子 先生	2009年度
教養学部芸術学科音楽学課程	梶井 龍太郎 先生	2003年度 2004年度
教養学部国際学科	カーター シェリ- G 先生	2005年度
教養学部国際学科	小貫 大輔 先生	2007年度 2010年度
教養学部国際学科	高橋 宏明 先生	2004年度 2005年度
教養学部国際学科	高橋 祐三 先生	2002年度
国際文化学部地域創造学科	広川 龍太郎 先生	2007年
国際文化学部国際コミュニケーション学科	ハミルトンマーク C 先生	2007年度
国際文化学部デザイン文化学科	中尾 紀行 先生	2007年度
国際文化学部デザイン文化学科	田川 正毅 先生	2007年
理学部数学科	古谷 康雄 先生	2006年度
理学部情報数理学科	土屋 守正 先生	2007年度
理学部物理学科	遠藤 雅守 先生	2005年度
理学部物理学科	江川 浩 先生	2003年度 2004年度
理学部化学科	関根 嘉香 先生	2003年度 2004年度 2008年度
理学部基礎教育研究室	及川 義道 先生	2002年度
情報理工学部情報科学科	内田 理 先生	2005年度
情報理工学部コンピュータ応用学科	浅川 毅 先生	2002年度 2007年度
情報通信学部情報メディア学科	濱本 和彦 先生	2002年度

情報通信学部経営システム工学科	西口 宏美 先生	2007年
情報通信学部経営システム工学科	森山 弘海 先生	2003年度 2004年度
工学部応用化学科	久慈 俊郎 先生	2007年度最優秀賞
工学部応用化学科	長瀬 裕 先生	2005年度
工学部電気電子工学科	大山 龍一郎 先生	2006年度
工学部建築学科	羽生 修二 先生	2006年度
工学部機械工学科	神崎 昌郎 先生	2004年度
工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻	柴田 啓二 先生	2011年度
海洋学部水産学科生物生産学専攻	鈴木 伸洋 先生	2006年度
海洋学部水産学科食品科学専攻	齋藤 俊郎 先生	2005年度
海洋学部海洋生物学科	村山 司 先生	2004年度 2007年
生物学部生物学科	笠原 宏一 先生	2007年度
農学部応用植物科学科	松田 靖 先生	2006年度
農学部応用動物科学科	仁木 隆博 先生	2008年度
体育学部体育学科	今村 修 先生	2003年度最優秀賞 2005年度
体育学部体育学科	小澤 治夫 先生	2007年 2010年度
体育学部競技スポーツ学科	高妻 容一 先生	2002年度最優秀賞
健康科学部看護学科	石井 美里 先生	2007年度
健康科学部看護学科	寺山 範子 先生	2008年度
健康科学部社会福祉学科	北野 庸子 先生	2004年度
総合教育センター	吉田 厚子 先生	2002年度最優秀賞 2005年度 2009年度
外国語教育センター第一類(高輪教養教育センター)	ヴァインストラ ロバート ジェyson 先生	2009年度
外国語教育センター第一類(清水教養教育センター)	栗原 ゆか 先生	2008年度
外国語教育センター第一類	シュロスブリー マーク リチャード 先生	2011年度
外国語教育センター第二類	安 小鉄 先生	2006年度
外国語教育センター第二類	佐藤 浩一 先生	2010年度
外国語教育センター第二類(札幌教養教育センター)	張 雷 先生	2007年度
課程資格教育センター教育学研究室	朝倉 徹 先生	2004年度最優秀賞 2005年度 2011年度
課程資格教育センター教育学研究室	杉崎 雅子 先生	2007年
課程資格教育センター教育学研究室	平野 眞 先生	2010年度
教育研究所	有沢 孝治 先生	2006年度 2008年度

体育学部武道学科
■天野 聡先生

総合教育センター
■吉田 厚子先生

教育支援センター所長
★内田 晴久先生

文学部アジア文明学科
■葉 干栄先生

課程資格教育センター
博物館学研究室
■篠原 聡先生



東海大学の「4つの力」を育成するために

●東海大学が育成する4つの力—— ●自ら考える力 ●集い力 ●挑み力 ●成し遂げ力

グローバル化が進む今日、様々な価値観を持った人々とコミュニケーションをとりながら、困難に立ち向かうことのできる人材を育成するため、東海大学では、「自ら考え、集い、挑み、成し遂げる」4つの力の育成を掲げています。そこで、『東海大学の「4つの力」を育成するために』と題して、2012年度Teaching Award受賞者の先生方4名と座談会を開催しました。ここにその内容の一部をご紹介します。座談会の詳しい内容についてはHPをご覧ください。

(2013年4月1日、授賞式後、教育支援センター主催)

●授業で特に大切にしている「力」は？

司会(内田先生)★授業の中で特に大切にしている「力」や身につく「力」についてお聞かせください。

篠原先生●私の担当は博物館の学芸員資格に関する授業です。学芸員には3つの能力(コレクション・コミュニケーション・マネジメント)が求められますので、「集い力(コミュニケーション力)」は重要な要素の一つです。「集い力」を通じて、自分とは違った考えに心を閉ざさず、多様なものの見方・考え方を身につけることが重要だと思います。

天野先生●私が大切にできる力も「集い力」です。私は武道(剣道)が専門であり、主に実習科目を担当しています。学生には、互いに協力し課題を達成していく中で、自分の考えを表明するとともに、他者の意見に耳を傾けるといったコミュニケーション力を身につけてほしいと考えています。

吉田先生●どれも大切な力ですが、まずは「集い力」です。私はまず、人の話を聞く姿勢を身につけてほしいと思います。そのためには、授業環境を整えてあげることが大切です。ですから、授業は「あいさつ」からはじめ、マナーを守らない学生には注意をします。授業も社会性を身につける大切な場です。

葉先生●同感です。授業では知識やテクニックだけではなく、人との付き合い方も学んでほしいですね。それに加えて「挑み力」が大切です。日本の学生は諸外国の学生と比べ、受け身な学生が多いからです。もっと世の中の問題に知的好奇心をもって、聞いて、見て、触って、考え、どんどん挑戦してほしいです。

●「4つの力」を身につけるための工夫は？

司会者★「4つの力」を身につけてもらうため、特に工夫していることはありますか？

葉先生●授業の基本は学生と教員のface to faceです。「ことば」は人をひきつける力を持っています。教員は授業という「ことば」を通して学生をひきつけ、「4つの力」が身につくよう引っ張っていき必要があります。そして、学生が自信を持てるようにすることが大切です。世の中のリアルタイムの出来事を学生目線で話すことで、「自分にもわかる!」と思わせることが、彼らの「挑み力」を刺激させることに繋がります。

吉田先生●いろいろな情報に惑わされ、今の社会をきちんと認識していない学生も多く見受けられます。ですから、ただ教えているだけでは学生はついてはきません。学生の力を伸ばすために、少人数でも大人数の授業においてもグループワークを通して、既成概念をつき破るようなテーマをぶつけ、今、学生としてどういうことが考えられるのか、みんなと話し合い、それをまとめさせて発表する機会を必ず持つようになっています。

司会者★「自ら考える力」の育成ですね。

天野先生●多様な人々の力を集結して課題を達成していく中で、この「4つの力」を養っていけるのではないかと思います。できるだけ、学生同士で考えを出しながら物事に取り組みせることを心がけています。

司会者★ 新入生には、「自ら考える」という大学での学び方に早く慣れてほしいのですが、グループワークなどに参加して、自分で考えたり、仲間と様々な体験をすることが大切ですね。その意味で、初年次生への授業での工夫はありますか？

篠原先生●4月から「東海大学×彫刻の森美術館・キュレーターの“たまご”プロジェクト」を始めます。美術館側に企業協賛のユニークなワークショップがあり、マネジメントの実践的な学びにもなると思います。大学側は、「たまご」(インターン)を派遣するだけでなく、事前・事後指導や研修会、連続講座などを企画し、理論と実践の両面から学生をサポートします。「4つの力」を伸ばす絶好の機会になるはずです。

●学生の皆さんに一言メッセージを

司会者★ 学生たちに、一言メッセージをお願いします。

葉先生●とにかく学生たちには、人生を楽しんでほしい。

大学で人生を楽しむ力を身につけ、それを社会のために役立ててほしいと願っています。

篠原先生● 今後、自分の考えだけでは説明が難しい事実に向面することもあるでしょう。それは、私たちが耐えるべき、耐える価値がある困難なのです。「成し遂げ力」に繋がりますが、答えが分からない状況から逃げ出さず、問い続けることが大切です。高い目標を掲げて人生を歩んでほしいです。

天野先生● 私は授業態度やマナーといった授業の規律を守ることを徹底しています。全員が集中して授業に臨むことができるからです。専門的な知識も大切ですが、学生には授業を通じて社会的態度も身につけて巣立ってほしいです。

吉田先生● 学生には、よりよく生きるための人間力を身につけてほしいと思います。授業で、そのきっかけができれば良いですね。社会に出て不遇に直面したり挫折した時、それとどう向き合っていくかという自らの判断力が大切だからです。

司会者★ 最後に、受賞者のお一人で今回参加できなかったヴィーンストラ ロバート ジェイソン先生からのメッセージをご紹介します。

外国語教育センター第一類(高輪教養教育センター)
■ヴィーンストラ ロバート ジェイソン先生



ジェイソン先生● 私は「4つの力」を育成するため、3つの考えを持っています。1つ目はベストをつくすこと。2つ目はグループワークなどの双方向的なアクティビティを行うこと。3つ目は学生の自主性を伸ばすことです。学生の皆さんは、積極的に授業に臨むべきです。大学での学びをポジティブに捉えることで、大学生活が楽しく満たされたものになるでしょう。